

南郷里の歴史古道を歩こう

今回は、南郷里地域の北方面ルートを中心に、歴史的建物や遺跡などを巡りました。案内は、長浜市観光ボランティアガイドの方です。（南郷里地元の方でした）

順路に沿ってご紹介します（当日のガイドブックより）

南郷里地域は、旧長浜市のほぼ中央に位置し、全てが平野部で田園風景が広がる地域です。中央に北陸自動車道が走り、西側は、市街化区域として、市街地形成が進み、一方東側は、市街化調整区域なので、のどかな風景が広がっている地域です。

弥生時代から、古墳時代にかけて、南北郷里はたいへん開けていました。それは、息長氏という古代豪族が今の米原市にいて、その影響で開けていました。息長氏は、皇室とも関係があったようです。そのため、横山から南郷里辺りにかけて、古墳が大変多かったようです。また、畿内と北陸を結ぶ交通の要衝でもありました。



■南郷里まちづくりセンター午前9時スタート

■三社神社(さんしゃじんじゃ)長浜市新栄町

祭神は、天照大神・応神天皇・天兒屋命（春日権現）

正中元年（鎌倉時代）一乗寺（現常昌寺）の開基日像上人が、同寺の守護神として、誉田別尊（応神天皇）を勧請し、天文元年（室町時代）に天照大神と春日権現の二柱を合祀し三社大明神と称する。明治維新後、現在の社名となり近年、神域の拡張、社殿の改築、植樹等境内は整備された。



■日蓮宗小足山常昌寺(こあしざんじょうしょうじ)

長浜市新栄町

本尊 大曼荼羅 開基 日像上人

何回も火災にあい、今の本堂は、大正8年に再建された。

境内地守護神

妙布大明神 明治の大火の後火伏の神様として稻荷



様が祀られた。

妙見大菩薩 妙見とは、「優れた視力」という意味から、開運招福の仏様。

三十番神 三十人の神様が毎日交代でお寺をお守りされている。

七面大明神 七面天女といわれ、雨乞いの神様である。



■辺原(へんばら)長浜市新栄町

その昔この森では、姉川の合戦で傷つき亡くなった兵士がたぐさんいたと伝えられている。その人々の冥福をいのるため常昌寺の関係者が建てたものとも考えられる。新栄町は、明治12年に北小足村、北田附村、石塚村、とが合併して「新栄村」となる



■白山神社(はくさんじんじゅ)長浜市加納町

御祭神 伊弉諾尊(いざなぎ) 伊弉由尊(いざなみ)

御神紋 十六菊 剣梅鉢

伊勢神宮の御厨地として、天長5年(828年)4月の建立で、当社の西南には、「上臈塚」西北には、「越前塚」の前方後円墳があり、こちらは古くから開けていたのであろう。



■上臈塚古墳(じょうろうづかこふん)長浜市加納町

上臈塚古墳は、加納新町の団地の中にひっそりと佇んでいます。天皇につかえた身分の高い人の塚です。



■越前塚古墳(こしまえづかこふん)長浜市加納町

越前塚古墳は、越前の貴族の墓とも言われています。越前塚古墳(こしまえづかこふん)と呼ばれ、長浜市加納町越前塚の平地にありました。墳丘はすでに消滅していて今はうかがい知ることはできません。

墳丘は、後円部に比べ前方部の長さが短くまた、前方部の高さが後円部に比べ著しく低く帆立貝のようになっていることから、帆立貝式の、前方後円墳と言われています。



墳丘の規模については、いくつかの点が消滅のため不明ですが、後円部の径 38m、高さ 2.2mで、墳丘全長は 50mとなっています。

墳丘の周囲には、周濠がありました。また、墳丘には、埴輪が配列されていたことが確認されています。

北国道の起点である近江の湖北地域は越の国と密接な関係を持った文化圏が営まれていたと推測されます。



■榎木百坊廃寺(えのきひゃくぼうはいじ)長浜市榎木町

謎の古代寺院

姉川流域（左岸）の長浜（坂田）地域の古代寺院です。

白鳳期寺院で『扶桑略記』によると、持統天皇6年（692年）頃で外にも、新庄番場廃寺、大東廃寺、柿田廃寺（東上坂）、上寺廃寺（東上坂）が知られている。

榎木も数多くの坊（僧侶が、生活する建物）があったと言われる古代寺院跡である。

榎木町集落の中ほどに、福の神地藏尊があり、そこに「塔心礎石」を思わせる大きな石がある。

ここは福の神古墳があったところで、この石は花崗岩石で、長径 1.80m 短径 1.50m 高さ 70cmの大きなもので上面の中心の位置に直径 44cm、深さ 6cmの凹ませた袂りが施されている。何度か発掘調査が実施されたが、伽藍跡、瓦、土器などは出土してない。

今でも、榎木町集落内では、農地の名前に、東善寺・普現堂・中寺・真昌寺・新光坊・御縁坊・道寺といったお寺名前のついた小字名が、多数存在している。



■伊吹神社(いぶきじんじゅ)長浜市山階町

御祭神 伊吹神

御神紋 剣梅鉢

御由緒 勧請年月日ははっきりしないが、近郷七ヶ字の総社であったといわれ、樹木がうっそうと茂り、昔から、伊吹の社と呼ぶ、大きな社地を持ち、社宝の仮面は、近江猿楽上三座の山階座の遺品と考えられる。

近江猿楽上三座とは、山階座。下坂座。と大津の日吉（ひえ）で、中世では、能や狂言を猿楽と呼ばれていて、社寺の神事や法会場などで活発な芸能活動を行っていた。



■南郷里まちづくりセンター 12時30分帰着

歩いた距離 約5km 歩いた時間 約3時間

昼食に、豚汁いただきました。

